

令和3年度東北町経営継続支援事業費補助金事業の実施状況及び効果の検証

対象	導入機械等	効果の検証
経営体1	コンベアトレンチャー	今回導入のコンベアトレンチャーは、掘り取り部分に振動機能が追加されたことで長いもの収穫時の土塊がほぐれ作業者が楽に掘り取りできる。このことにより省力化と作業速度が向上した。また、掘り取り部の排土板が大型化したことにより排出される土の量が減り、作業者の省力化につながった。
経営体2	ツル巻機、消毒機	<p>土壌消毒機：今まで使用していた土壌消毒機は消毒のみしかできなかつたが今回導入機械は、マルチを同時に施行可能で、省力化及び作業能率向上が図られた。</p> <p>ツル巻機：今まで長いものツルの除去作業は手作業で行っていたが、今回導入機械により、省力化及び作業能率向上が図られた。</p>
経営体3	ローダー	既存のローダーは28psトラクターだったため持ち上げ重量が少なかったが今回導入のローダーは54psのもので持ち上げ重量が約2倍となり堆肥切替し作業効率が向上した。
経営体4	ローダー	ニンニクの運搬時に今まではコンテナに入れたものを選別場所へと手で運搬していたが、今回フロントローダーを導入したことにより直接にんにくを運搬可能になり省及び作業能率向上が図られた。また、来年度にんにく収穫作業時には収穫物の運搬も行えるため省力化及び作業能率向上が図られると考えている。
経営体5	トラクター（65ps）	今まで水稻の基幹作業においては、タイヤのトラクターを使用していたが今回導入機械は、ハーフクローラ仕様となっていて直進性が増したことによりハンドル操作が軽減し省力化に繋がった。また、代掻きを行う際に以前はトラクターにカゴ車輪を装着し作業していたが、不要となったため作業能率向上及び省力化が図られた。また、ロータリー作業時には、牽引力が向上したことにより作業速度が上がり作業能率向上が図れた。
経営体6	米乾燥機	今回導入の乾燥機は、仕上がりも早く遠赤外線乾燥機で米も上質に仕上がる。そのため、精米作業も早く行えるので、乾燥の回転がよくなり、稲刈りも効率も上がる。
経営体7	ニンニク温風乾燥機、土壌消毒機	土壌消毒機：今回導入機械は、液剤の注入量をコントローラーで調整可能で、かつマルチを同時に施行可能で、省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体8	ホイールトレンチャー	今回導入のホイールトレンチャーは、2連のもので今までは1連のものを使用していた。長いも、ごぼうの作業

		<p>においての植え溝掘りの作業が今回導入機械により省力化及び作業能率向上となった。</p>
経営体 9	トラクター (33ps)	<p>今回導入トラクターはキャビン付きで、ある程度の雨でも作業ができ、ロータリーの着脱もスムーズになり省力化及び作業能率向上が図られた。</p>
経営体 1 0	トラクター (21ps)	<p>今までは、作業内容がわかるたびに機械を取り付け交換していたが、今回導入機械で作業機取り換え機械が減少したため作業能率向上が図られた。</p>
経営体 1 1	長いも収穫機	<p>今までわき掘りで長芋を収穫していたが、今回導入機械はセンター掘りのため、長いも収穫作業の省力化が図られた。</p>
経営体 1 2	トラクター (35ps)	<p>今までは、25 p s のトラクターを主に管理作業に利用してきたが、今回導入のトラクターは、35 p s のため、出力が大きくなったことで管理作業の作業速度が向上した。また、ワンタッチ耕運機能の追加により省力化が図られた。さらに長いも収穫時には、スチールコンテナのけん引作業で使用し出力が大きくなったことで多少の悪天候で圃場がぬかるんでいても作業が可能になり作業能率向上が図られた。</p>
経営体 1 3	トラクター (24ps)	<p>今までは、20 p s のトラクターを主に管理作業に利用してきたが、今回導入のトラクターは、24 p s でかつハーフクローラ仕様のため、出力が大きくなったことで管理作業の作業速度が向上した。また、ワンタッチ耕運機能の追加により省力化が図られた。また、旋回能力が向上したことで作業能率向上が図られた。</p>
経営体 1 4	管理機	<p>今まで長いも定植後の土上げ作業は9psの管理機で行っていたが、今回導入機械は10psになり出力が上がった。また、以前までの管理機は1輪のものだったが今回は2輪のものにしたことで作業機の安定性が上がり省力化が図られた。また出力が上がったことにより作業速度が向上し作業能率向上が図られた。</p>
経営体 1 5	カルチベーター、消毒機	<p>カルチベーター：今まではロータリー式のものを使用していたが、今回導入機械は爪のものでPTOを使用しておらず作業速度が向上した。</p> <p>消毒機：今までは液量の調整が手動のものでかつ液量が一定に出なかった。今回導入機械は、電気式のため流量調整がトラクター内で行え、かつ一定量での消毒液散布が可能になり、省力化及び作業能率向上が図られた。</p>
経営体 1 6	マニアスプレッダ	<p>今まで1.5 t 上限のマニアスプレッダを使用していたが、今回導入機械は2 t 上限のもので1回に運べる堆肥</p>

		等の量が増えたことにより、作業能率向上・省力化が図られた。
経営体 1 7	ロータリーカルチ	今まで管理機を利用してごぼうの畝間の中耕を行っていたが、今回導入機械によりトラクターでの作業が可能になり、省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 1 8	畔塗り機	今回導入のアゼローターは、電動オフセット機能が追加されており、トラクターから乗り降りすることなく機械のオフセットが可能。また、機械が大型化したことにより作業速度が向上した。このことにより、省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 1 9	畔塗り機	今回導入機械により、水田の水漏れがなくなり、作業能率向上が図られた。
経営体 2 0	畔塗り機	今まで畦畔のあぜ塗りは委託で行っていたが、今回導入機械によって自分でできるようになった。それにより、適期作業を行えるようになり、その後に行う代かき作業の日程の短縮など作業能率向上が図られた。
経営体 2 1	サイバーハロー	今回導入の代掻きハローは、作業幅が 4m となっており今まで使用していたものは 2.4 m だったので作業能率が格段に上昇した。また、取り付けに関してもワンタッチヒッチのものとしたことで、省力化が図られた。また、電動の折り畳み式となったことで、土寄せ作業でエプロンの固定を行う際などボタン一つで行うことができるため省力化が図られた。
経営体 2 2	グランドソー、テープシーダ	グランドソー：今まで手作業で農薬散布していたが、今回導入機械で数種類の農薬を混和し一度に散布可能になった。 テープシーダ：今回導入のテープシーダはトラクター装着型と手動型のもので、トラクター装着型は作業能率が大幅に向上した。手動型は、傾斜地等で利用し、殺虫剤も同時に施用できるものになったため省力化が図られた。
経営体 2 3	汎用大型管理機、ラジコン動噴	汎用大型管理機：今までは 7.5 p s のものを利用していましたが今回導入機械は 8.5ps で大型なものにしたことで作業速度が向上した。また、ロータリー幅が広ことにより作業能率向上が図られた。 ラジコン動噴：今まで使用していたものは操作者が機械の近くで操作しなければならなかったが今回導入機械はラジコン式のためホースの送り出しの補助と兼務可能になったため省力化が図られた。また、噴霧圧力が上昇したにより作業能率向上が図られた。

経営体 2 4	長いも洗浄機、スーパー S ポール	長いも洗浄機：今回導入機械は高圧で長芋洗浄ができるため省力化及び作業能率向上が図られた。 スーパー S ポール：従来の鉄パイプと異なり軽量でさびないため省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 2 5	乗用田植機	今回導入機械の乗用田植機は、ローター機能が追加されたことで枕時の手作業での均し作業が不必要となり省力化及び作業能率向上が図られた。また、作業速度が向上し作業能率向上が図られた。
経営体 2 6	肥料散布機	今回導入機械によって、今まで手作業で長いもの追肥を行っていたが、省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 2 7	管理機	今まで長いも定植後の土上げ作業は 9ps の管理機で行っていたが、今回導入機械は 10.5ps になり出力が上がった。また、以前までの管理機は 1 輪のものだったが今回は 2 輪のものにしたことで作業機の安定性が上がり省力化が図られた。また出力が上がったことにより作業速度が向上し作業能率向上が図られた。
経営体 2 8	カルチベーター、スーパー S ポール	カルチベーター：今まで長いも定植後の中耕作業は管理機で行っていたが、今回導入機械は、トラクターに直装できるため作業能率が飛躍的に向上した。また、省力化も図られた。 スーパー S ポール：従来の鉄パイプに比べ軽くなったことで、省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 2 9	自走防除機	今まで長いもの防除作業は動力噴霧機で行っていたが、今回導入機械によって手放しで作業可能になり省力化が図られた。また作業能率も動力噴霧器に比べ格段に上がった。
経営体 3 0	馬鈴薯収穫機	今回導入機械は、掘り取り、集積作業が 1 工程でできるため収穫作業の省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 3 1	トラクター (24ps)	今まで所有していたトラクターは 50ps 以上のものしかなく、ごぼうの播種作業、管理作業が効率的に行えなかった。今回導入のトラクターは 24ps で小回りが利き、かつハーフクローラ仕様で牽引力もあるため、ごぼうの播種作業、管理作業が大幅に作業能率向上、省力化が図られた。
経営体 3 2	船外機 (115ps)	今回導入の船外機は以前使用していたものと同じ出力のものだが、燃費性能の向上により、船上での給油回数が減少した。また、エンジン性能の向上により低トルクで出力が安定し負荷がかかる作業でもエンストが起こることなく作業可能になったこと省力化及び作業能率向上が図られた。

経営体 3 3	正ネスティングボックス、プラスチックパレット	<p>正ネスティングボックス：今回導入したものにより、パレットに積んだ資材類を床に重ねず段積みが可能となる。これにより、必要なもののみをいつでも取り出し可能で省力化及び作業能率向上が図られた。</p> <p>プラスチックパレット：全て手積み手下しの状態から解放され、フォークリフトによる積込みが可能となり、作業能率向上が図られた。</p>
経営体 3 4	ライホーラドラム	<p>今までしじみ貝の収穫は、ジョレンを使って手で行っていたが今回導入機械によって動力を使用してジョレンの引き上げが可能になったため、省力化及び作業能率向上が図られた。</p>